情報発信場面における体験的な情報モラルの学習

１　はじめに

　特別支援学校高等部学習指導要領の教科〔情報〕には、情報モラル教育について「情報の取扱いに関するきまりやマナーを理解し，それらを守って実習する。（２段階）」と示されている。つまり、軽度の知的障害がある生徒については、実際に機器を操作するなど具体的な活動を通して、情報モラルの理解力・判断力を高める必要性が述べられていると考えられる。さらに、指導要領解説には内容の具体例として、「電子メールの活用に当たって，節度ある表現で発信できること，・・・・，また，情報通信ネットワークの活用に当たって，必要な情報と不必要な情報，道徳性に欠ける情報について判断できることなどが挙げられる。」と示されている。しかしながら、特別支援学校における情報モラル教育の実情を考えると、学習指導要領で示されているような実践的な内容を行っている事例はまだまだ少ない。そこで、情報モラルを活用する実践的な事例としてどのような授業が考えられるのか、検討し、実践してみることにした。

　また「教育の情報化に関する手引」（文科省2010）において「情報モラル教育は，学校を挙げて体系的に取り組む必要がある。」と述べられているように、情報モラル教育は特定の教科で行うものでなく、横断的に学校活動全体で取り組むべきものである。実践するに当たっては、情報科と他教科の連携を意識した取り組みになるように配慮した。

２　単元名「ホームページの原稿を作ってみよう」

３　単元設定の理由

　スマートフォンの普及により、インターネットを使った情報検索やＳＮＳを使ったコミュニケーションなどが手軽に利用できるようになり、その便利さから特別支援学校の高等部においても所持率が高くなっている。一方で、気軽に情報を発信できる状況は、個人情報の流出や不適切な情報の発信などのトラブルを引き起こしており、情報を発信する際に正しい判断をする力の育成が必要である。対象クラスは、軽度の知的障害がある生徒が多く在籍しているクラスである。実態として、小中学校で情報モラルの基礎的な知識を学んでおり、具体的な事例を基にした学習では、よいか悪いかという判断を適切に行うことができる生徒が多い。そこで、実際に情報を発信する活動の中で、情報の取捨選択を自ら行う経験を通して実践的な力を身に付けることを目的として本単元を設定した。

　学校ホームページでは、学年毎に行事の紹介記事などを作成・公開しているが、それは教師の仕事であり、生徒が関わることはほとんど無い。学校における数少ない情報発信の手段であるホームページ作成を情報モラル教育の題材として利用しないということは、勿体ないことに感じる。今回は、生活単元学習で行った校外学習の紹介記事を生徒自身で作成するという内容の中で、情報発信の判断基準や肖像権について考える情報モラル教育を実践することにした。

４　単元の指導目標

1. インターネット上で情報を発信する際に、伝えてよい情報と伝えるべきでない情報を判断することができる。
2. 見る人のことを考えて、わかりやすい言葉で校外学習の様子を文章に表し、入力することができる。
3. 肖像権の視点から、インターネット上に掲載しても問題が無い写真を選び、原稿に貼り付けることができる。

５　単元の指導計画（全５時間扱い）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | 指導内容 | ○ねらい・■学習活動 |
| １ | 校外学習の紹介記事をホームページに載せよう | 〇インターネットの特性を理解し、情報を発信する際に注意すべきことを理解する。■過去の行事紹介記事を読み、行事紹介として、ホームページにどんな情報を載せたらよいか、逆に載せてはいけない情報は何かを考える。 |
| ２３ | 原稿を考えよう原稿を入力しよう | 〇伝えたい情報と伝えてはいけない情報を取捨選択して原稿を考える必要があることを認識させる。■校外学習のことを思い出しながら原稿を作成する。その際、伝えるべき情報が盛り込まれているか確認しながら作業を進める。 |
| ４ | 肖像権について考えよう | 〇肖像権の基本的な考えと、その場の状況に応じた判断基準について理解を深める。■ロールプレイを通して、写真を撮ったり使ったりするときに注意すべきことを考える。 |
| ５ | 写真を選ぼうお互いに評価しよう | 〇他人の作成記事と比較することで、より分かりやすい情報の伝え方について考える。■校外学習で撮影した写真を選び、作成した原稿に貼り付ける。スペースに応じて大きさを調整するなど体裁を整える。■作成した記事を発表し、お互いの良いところを評価する。 |

６　指導の成果

・ロールプレイや話合い活動などルールやマナーを「考える活動」では、他の生徒と意見交換する中で、今まで気付かなかった視点に気付いたりインターネットの特性について理解を深めたりすることができ、情報発信の見えない部分についてイメージさせるのに効果的だった。

・原稿作成や写真の掲載など「実際の発信体験」は、授業で得た知識や気付いたことを基に作業することで、自分自身で判断したり、判断が間違っていないことを確認したりすることに効果的だった。

・完成したホームページを見た生徒たちは、「自分の書いた原稿が載ってうれしい」「他の行事もホームページで紹介したい」と前向きな感想が挙がった。また「もっと活動が分かる写真を選んだ方がよかった」「文章はもっと短くした方が読みやすかった」など改善意見についても聞くことができた。大きな行事毎に紹介記事を作成し、ホームページ更新を継続することで、判断基準や知識の定着が図れ、態度として身に付くことが期待できるのではないか、と考える。

７　まとめ

　従来の情報モラル教育では、インターネットの危険性など情報化の「影」の部分に焦点を当てがちであったが、情報社会に参画する態度を育てるためには、有効な活用方法について考えさせることも重要な役割である。今回の実践では、ホームページ作成という実際の情報発信場面における成功体験を通して、生徒の意欲を高め、発信者として責任をもって情報を発信しようとする態度につなげることができた点で大きな成果があった。

４本時の指導

1. 題材名「校外学習のホームページを作ろう」　（１／５）
2. 本時の目標
	1. 校外学習の様子を伝えるために必要な情報を考えることができる。
	2. インターネットの特性上、どんな情報を載せてはいけないかを考えることができる。
3. 本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 学習内容学習活動 | 指導上の留意点 |
| 導入5分 | 【本時の学習内容の確認】・ホームページを見る。・校外学習のホームページを作成することを知る。 | ・学校のホームページがあることを知っているか、見たことはあるか質問する。・校外学習の行き先や内容について確認する。 |
| 展開40分 | 【ホームページに載せる情報】・行事紹介の記事としてどんな内容を伝えたら良いかを考える。・意見発表、確認【インターネット上の情報の特性】・インターネット上の情報は世界中に公開されていることを知る。【ホームページに載せてはいけない情報】・インターネットの特性を踏まえて、どんな内容を載せてはいけないのかを考える。・意見発表、確認【事例から考えよう】1. Twitterでの不適切発言から炎上した事例
2. 個人情報の流出など

・インターネット上の情報の特性と情報を発信する際に注意すべきポイントについて理解する。1. 個人情報などが含まれていないか
2. 他人から非難されたり、不快にさせたりする内容が含まれていないか
 | ・先生方が過去に作成した行事紹介の記事を用意しておき、どんな内容が含まれているか少人数で話し合わせる。・ホームページを見る人はどんなことを知りたいと思っているのかという視点で考えさせる。・いつ、どこで、何をしたなど、校外学習の様子が詳しくわかる内容や制作者が特に伝えたいことが盛り込まれていることを確認する。・資料等を使って、インターネットの特性についえ説明する。ホームページで情報を伝えたい相手＝閲覧している人ではないことに気付かせる。・氏名などの個人情報は悪用される恐れがあること、見学先への批判は学校への苦情や炎上の恐れがあること、学校は公的機関であることから、誤解を招く内容や誤字は避けることなどを確認する。・ネット上の情報特性として、保存性、公開性、即時性について触れ、説明する。・新聞の切り抜きや資料を使い、軽はずみな投稿が重大な結果を招いてしまうことに触れ、情報を発信する際には十分注意するよう指導する。 |
| まとめ5分 | 【本時のまとめ】・次時の学習内容・本時の学習の確認をする |  |

４本時の指導

1. 題材名「原稿を考えよう」（２／５）
2. 本時の目標
	1. 校外学習について要点を押さえてわかりやすく紹介記事を書くことができる。
	2. 個人情報などの不必要な情報が入らないように意識して記事を書くことができる。

（３） 本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
| 導入５分 | ・前時の振り返りと本時の学習内容の確認 | ・前回の授業内容と校外学習の様子を振り返る。・本時の学習内容を知る。 | ・校外学習で撮った写真などを見せる。 |
| 展開40分 | ・ホームページに載せる情報の確認・文章の書き方・原稿の作成 | ・行事の紹介としてホームページに載せるべき内容と、ネット上に載せてはいけない内容について振り返る。・情報を見る相手のことを考え、どんな文章にしたら良いかを考える。・各自で校外学習の紹介記事の下書きを作成する。 | ・前回の学習内容を振り返り、見る人がわかりやすいように必要な情報を網羅すること、個人情報など不必要な情報の掲載は避けることを確認させる。・地域の方や保護者、他校の教員が見ていることを伝え、丁寧な言葉でわかりやすい表現にするように指導する。・事実を伝えるだけでなく、自分なりに特に伝えたいところに焦点を当てるとインパクトのある記事になることに気付かせる。・おおよその文字数は設定しておく。・原稿用紙に下書きさせる。・文章を書くことが苦手な生徒には、言葉でのやり取りで書きたい内容を確認しながら、一緒に文章を考えていく。 |
| まとめ５分 | ・本時のまとめ・次時の学習内容 | ・本時の学習の確認をする・次時では、作成した原稿について推敲した後、決まった形式に入力することを知る。 |  |

４本時の指導

（１）題材名「肖像権について考えよう」（４／５）

（２）本時の目標

* 1. 肖像権の基本的な考えを理解することができる。
	2. 相手の気持ちや、その場の状況、自分の責任などを考え、場面に応じた対応を考えることができる。

（３）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 指導上の留意点 |
| 導入５分 | 【本時の目標の確認】・本時の学習目標を知る・肖像権の基本的な考え方を知る・ロールプレイに関するルールの確認　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（５分） | ・この学習を行う意図（HP作成で写真を扱うため）と、基本的な肖像権の考え方（勝手に人の写真をとったり、使ったりしてはいけない）を伝えた上で、ロールプレイを通して「なぜ、どうして」という理由や、具体的に「どうしたらよいのか」ということを考えるという目的を明らかにしておく。 |
| 展開40分 | ・場面設定について説明する【場面Ⅰ】・モデルＡを実演する（Ｔ１・Ｔ２）　　　　　　　―以下の流れで場面Ⅰのロールプレイを行う―①セリフを考え、ワークシートに記入する②２人１組になり、意見を出し合う　　　③グループとして意見をまとめる④ロールプレイの発表　　　　　　　　　・発表のよかったところやポイントを確認する・どんな視点が必要だったのか、解説する　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（2３分） | ・ロールプレイの流れを視覚的にわかりやすく示す。・実演した内容はどこに誤りがあるのか、意見を出させ、考えさせる。・ただ「だめだよ」と止めるのでなく、理由（なぜ）や対応（どうしたらよいか）を具体的に入れるように伝える。・発表のよくない点ではなく、良かったところを取り上げ、どんなところに“気付き”があったのか、確認する。・場面Ⅰにおいて身に付けさせたい要素や視点を説明し、生徒の理解を促す。 |
| 【場面Ⅱ】・場面設定について説明する。　　　　　　　　―場面Ⅰと同じ流れでロールプレイを行う―　・発表のよかったところやポイントを確認する・どんな視点が必要だったのか、解説する　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（1７分） | ・場面Ⅰと同様の流れで進める。・「撮影する前に、必要なことはないか」あるいは「撮影するときには、どんなことに気をつけたらいいだろうか」という視点で考えてみるように助言する。・場面Ⅱにおいて身に付けさせたい要素や視点を説明し、生徒の理解を促す。 |
| まとめ５分 | 【本時のまとめ】・肖像権の基本的な考え方を改めて確認する。　　　　　　　　・次時の学習の予定を確認する。　　　　　　　（５分） | ・肖像権に関することで気を付けるポイントについて振り返る。・次回の学習では、写真を選んで、原稿データに貼り付けて記事を完成させることを伝える。 |